

何て気持ち良い天気なんだろうか！

ギラギラとした太陽が、真夏のビーチに降り注ぐ。今日は絶好の海水浴日和だ。

男子高校1年生の宮田楓は、友人達2人と夏休みを満喫していた。

「楓ーおまえその水着エロすぎね？」

「何言ってるんだよ！カッコいいの間違いだろ！？バイト代貯めて買ったんだぜこれ」

楓が着ていたのはビキニタイプの水着だった。楓は水泳部に所属していて、憧れの水泳選手がいた。彼はビキニタイプの水着を着用しており、楓はずっと身に着けてみたいと思っていた。流石に普段の部活動で身につけることはできないので、着れる機会を伺っていたというワケである。

「いやカッコいいといよりかはいやらー…」

「？まあ何でもいいけど、早く泳ごうぜ！俺先に行ってるな！」

「え！？危ねーからあんま遠くまで泳ぐなよー！」

綺麗な海と新しいビキニタイプの水着で、楓は早く泳ぎたくて堪らなかった。

ざぶーん！！！！

ああ〜〜冷たくて気持ちいい！！夏の海サイコー！こんなのいくらでも、泳げる！

ざっぶーん、ばしゃばしゃばしゃ

夢中になって泳いでいると、ビーチから少し距離のある島に辿り着いてしまっていた。

流石に疲れた、休憩しよう。ほっと一息ついてると、

「ひとり？」

と声をかけられた。どうやら俺以外にもこの島に辿り着いた人がいたらしい。10人程の屈強な男達がニヤニヤしながら、俺に近付いてきた。

「君、見た感じ高校生っぽいけど、そんな水着着てここに来るなんてやるねー」

「そっすか？あざっす！」

泳ぎを褒められだと思い、楓は満面の笑みでお礼を言った。すると、その男は突然楓のビキニタイプの水着の上から股間を握ってきた。それが合図かのように、他の男達も一斉に楓の体を触り始める。

「ちょ！！な、何するんすか」

「何って乱交だよ、乱交。ここの島そういう場所では有名じゃん。君もそういうつもりでここに来たんでしょ？」

「ち、違います！んあ、俺本当に泳ぎにきてて！ああ」

「ははっ、恥ずかしいからって嘘つかなくて良いよ。普通の男子高校生がビキニタイプの水着なんか着るわけねーじゃん。ほら、ちんぽだってビンビンのびしょ濡れだよ」

自分の股間に目を移すとビキニタイプの水着が盛り上がり我慢汁でびしょ濡れになっており、興奮して勃起していることが一目で解った。

「う、うそだ！嘘だ！！」

「嘘じゃねーよ！この淫乱ビキニ高校生！」

バチイイイン！！！！！！男は思いっきり、楓の尻を叩いた。

「んああああああ♡♡♡！！！」

あろうことか、楓は絶頂してしまった。

「はは、お前メスになる才能あるぞ。初めてで尻叩いてイクやつなんて珍しいからな。今日は乱交の予定だったけど、変更だ」

パシ、パシ、パシ、パシ！！

男は楓の尻を叩きながら、揉みしだき、呟いた。

「今日はお前を、ここにいる全員で輪姦してやる。喜べよ、ここにいる奴は皆チンコ20センチ以上の奴らばっかだ。気持ち良いぜ。あ、もちろん中出しな」

「それにしても、本当このビキニ水着エロいなあ。買うとき勃起した？www」

「な！これは、佐原選手に憧れて買ったんですよ！ん、ああああ♡チンコ、も触るなああよ、ん♡！」

「あー佐原って水泳の？へーお前水泳してるから、そんなにエロい体してるのか。チンポのとこだけ白くて、プリケツで乳首もピンクで、はあ、本当に男を誘う為の体してるな、堪んねーなあ、はあはあ」

男の息は段々と荒くなったかと思うと、楓のアナルを舐め始めた。

「な、何やって！！ん、んあああ♡」

じゅる、じゅる、じゃっぷ、ぬぷうう♡

他の男達も楓の脇の下やヘソ、乳首、足の裏、耳など舐め回す。

「やあ、ああああ♡、みみ、耳、やあああ！！」

「へー君は耳が弱いのか？可愛いね～♡名前教えてよ♡」

デブのおっさんが俺に言うてくる。

「だれがお前みたいなデブなおっさんに、んああ！！、教えるかよおお♡♡、ああああ！！」

「うわ、今のは頭きたな」

おっさんは急に俺の頭を掴み口の中に舌をいれて、キスし始めた。

じゅる、じゅるるるる、にゅるるるるううう

気持ち悪い、気持ち悪い、気持ち悪い——…はずなのに！

「んんんんんん///！！！！♡♡♡」

「ぎゃははは、こいつキスとアナルでイッてるぜ！！俺はこのぷっくり乳首を食べてやるよ！」

かじiiiiii！！

「〜〜んんん、んんんん！！♡♡♡」

くるしい、キスで口が塞がれて頭に酸素が回らない！なのに、ずっとイッてる、俺  
イっちゃってるよおお♡♡♡  
こんな汚いおっさんとのキスで♡♡

「ぷは、かひゅ、ひゅーひゅーはーはーはー♡♡」

「はは、すっげえメス♡でっけえチンポで犯されたくて堪らねえって顔してるぜ♡」

「そ、そんな顔してる、わけねーだろ、はっはっバカが♡♡」

「へーまだそんな口聞けるんだ。まあ、生意気なのも嫌いじゃねーよ。でも、そこまで頑なに認めたくねーなら真実を見せてやろーじゃねーか」

そう言うと、男達の中の数人はスマホで写真や映像を撮り始めた。アナルは舐められっぱなしだし、乳首も耳も全身触られっぱなしである。

「な！やめろお！やめろよおお♡♡♡んおおおお♡♡」

パシャパシャパシャ、ジー、パシャパシャパシャ

やだやだやだ、恥ずすぎる！！

「ほら見るよ、この写真、すっげーエロい顔してるだろ」

「!!」

そこには誰がどう見ても発情したメスの顔があった。とっても気持ち良さそうにしていた。

俺…？これ本当に俺なの…？？

俺の中で、何かが壊れていくのを感じる。

「あっ♡あっ♡ああああああ♡♡♡♡」

「ぎゃははははは！こいつ自分のエロい姿見てイキやがったWW本当、淫乱の逸材だなあ！！ご褒美だ！チンポ挿れてやるよ！！！」

ズチュウウウウウ！！

「かはっ、あ、ああああああああ♡♡♡♡♡」

何これ気持ち良い♡気持ち良いよおお♡♡

「ほら、名前言え！このザコアナル♡」

「ああ♡言いましゅ、いいましゅうう////♡楓、かえででしゅうう、あああん♡♡」

「楓くんね♡高校はどこ？」

「そ、それゃはあ！ちょっとおお♡」

「言え！肉便器の楓にはそんな権限ねえーんだよ！ほらカメラに向かって言え！！」

ゴチュゴチュゴチュゴチュ！！！！

ああ♡そうだった&♡カメラあったんだったああああ！！♡

「早く言えよ！！！」

ゴツチュウウウウん！！♡♡

「〇〇高校の宮田楓！かえででしゅう♡♡」

「ははっ、こいつ堕ちるの早すぎだろ！これで楓君は一生、俺らの肉便器だからな！♡」

どっぴゅ、ぴゅるるードクドク！！

「ああああ♡ひっぐ、ひっぐ！うううあああ、ああああ～♡♡♡」

「は一♡流石は処女アナル、搾り取られて気持ち良かったぜ楓君。さあ残りの人達  
の分も啜えこんでやって。あ！ちなみに俺のチンポ1番短いから」

「あううう♡」

ゴブ、ゴブ、ゴプうう♡♡

お腹の中から、生暖かい精子が溢れるのがわかる。

「あ、こぼすなよー！じゃあ次は中山さんの真珠いりチンポでお仕置きしてやって下さいよ」

「そうしますかね」

「な！やああああ！！♡♡」

楓へのお仕置きが始まった♡♡

ごリュごりゅううううううううう！！♡♡♡

「あ！ああああああ”、、～～～んあああ”あ”！！♡♡♡♡♡」